



## 日本書紀 編纂 一千三百年

奈良時代の、養老四年(七二〇)五月二十一日、第四十四代 元正天皇のもとへ、舍人親王が『日本書紀』三十巻、系図一卷を献上してから、今日で一千三百年となります。

この『日本書紀』とは、『古事記』に続く日本最古級の文献の一つであり、『古事記』が皇室の目録で伝承する話をまとめた物語とすると、『日本書紀』は国家の目録で編纂された歴史書ともいえ、公的性格の強いものとなっています。

その為、『古事記』よりも詳細な内容と、また各豪族などに伝わる異説、異伝なども書かれていた事から膨大な文量となっており、それらを混同しないように、本文に続く各説話には「一書曰く(あるふみいわく)」と銘打ってから記述するなど、後世に史料として活用しやすい形に整えられており、史料として合理的で編纂態度も客観的なものとなっています。さらに古代の歌謡一二八首を記載している点など、日本の文学史上においても貴重な文献でもあります。

この『日本書紀』が編纂されるようになった背景には、飛鳥・奈良時代にかけて大陸の影響が徐々に濃厚となり、白村江の戦いなどが起こるにあたって、大陸由来の戦乱が日本国内にまで及べば、日本人の歴史まで戦火により消える可能性があった事、また各豪族の家々で、自分たちの都合の良い話を盛り込んだりする改竄が見られた事など、正しい日本史が揺らいでいた事から、国家規模で正式な日本史の成立が求められていた事があるといわれています。

しかし、昨今もうひとつの可能性として、この時代、天然痘などの疫病が大陸から入ってきた事で、抗体の無かった日本人は亡くなる人が続出した時代でもある事から、何とか生きていくうちに歴史を伝えようとした、そうした可能性も指摘されています。

いま新型コロナウイルスで、お年寄りの方が次々と亡くなっています。そうした方々の感染予防は勿論の事ですが、戦後の歴史を聞ける時間はあと僅かです。日本書紀一千三百年の節目にぜひ現代の歴史にも耳を傾けましょう。

## 祭礼催事中止について

報道等でもご承知の通り、新型コロナウイルスによる、緊急事態宣言が四月七日に発出されましたが、現状を鑑みるに、引き続き感染拡大を防止する観点から、左記祭礼につきましては、神職による神事のみとし、一般のご参列はご遠慮頂く形で斎行する事となりました。

- ・ 五月 五日 玉姫稻荷神社例祭(玉姫祭)
- ・ 五月十五日 喜多埜稻荷、白龍社例祭
- ・ 六月 四日 齒神社例祭
- ・ 六月三十日 夏越大祓(御旅社)
- ・ 七月六日・七日 七夕祭(御旅社)
- ・ 七月十五日 例祭(御本社)
- ・ 七月廿四日 遣梅式(神事も中止)

何卒ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

## 今月の暦

【祭礼】 玉姫祭(五日)：御旅社の末社・玉姫社例祭 神事のみ  
喜多埜稻荷神社 並びに  
白龍社 例祭(十五日)：御本社末社の例祭 神事のみ

【節気】 立夏(五日)：この日から暦の上では夏  
小満(二十日)：草木の葉が一定の大きさになる頃

【雑節】 八十八夜(一日)：立春から八十八日目。新茶の時期

【大安】 五月六日、十二日、十八日、廿四日、卅日

【祝日】 憲法記念日(三日)、みどりの日(四日)、こどもの日(五日) ※六日は振替休日

### 【旬】

【野菜】 アスラバラガス、ジャガイモ、春キャベツ、サヤエンドウ、ミツバ、フキ、新ゴボウなど

【果物】 イチジク、枇杷、夏みかん、グレープフルーツ、イチゴ(露地物)、下旬では梅酒用の青梅など

【魚介類】 タコ(真蛸)、カツオ(初鱈、アジ)、ヤマメ、イサキ、メバル、キビナゴ、サザエ、春牡蠣など

【その他】 新茶、バラ、ツツジ、カキツバタ、シヤクヤク

### 雑感

コロナ禍による感染拡大を防ぐ観点から、緊急事態宣言が発出されてから、梅田の人通りは本当に少なくなりました。NTTドコモの調べによると、大阪梅田の出入は感染拡大以前と比べて、八七・八%も減少と全国屈指の減少率であったそうです。経済的には大変な状況ですが、大阪の人々の災害時への結束の強さを表した数字ともいえそうです。もうひとつ踏ん張りがんばりましょう。

※ 先月号記載の立皇嗣の礼ですが、四月十九日の挙行と記載しましたが、コロナ禍により延期(日程未定)となりました。



網敷天神社 SNS、地図サイト

編著 網敷天神社

編集 網敷天神社

白江 秀 知

